



〈研究〉外國爲替文献卜爲替利潤ノ源泉(2)

高島，佐一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 32(5):793-808

(Issue Date)

1922-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053434>



外國爲替文獻と爲替利潤の源泉（其二）

名古屋高等商業學校教授
兼小樽高等商業學校教授

商學士 高島佐一郎

五

抑々外國爲替創業の仕事は云ふまでもなく、在外取引地點、一層正確に言へば其の地宛手形を以て其の國際貸借が最も有利に決濟せらるる如きの外國市場に於て若干の在外貸方殘高 (foreign balance abroad) を設定するに始まるであらう。而かも之とても時に流俗の解するが如く巨額の現金殘高を設備するものにはあらずして唯だ買入れ外國手形を送付するにより自働的に設置せらるるものである、而して一旦、相當額の殘高を開設せる以上は、爾後は單なる日常爲替取引の裏に、預金殘高なる此貯水池は、絶えず汲みとられ注ぎいれられて之が平準には太だしき高低なきを通則とする、即ち爲替の主要業務たるものは提供せられたる確實なる外國商業手形を成るべく廉價に買入れ之が送付によつて貯水池を灌漑すると共に、斯くて設置せられたる貸方殘高に對して成るべく直ちに且つ成るべく高價に、自家銀行手形を賣出すにある。而して賣買相場間の開きは即ち營業利得をなす。而して買入れたるものは成るべく直ちに賣らんとするは、即ち其の時期間に相場上の變動な

く以て投機的要素の介入を許さざるが爲なるは言ふまでもない。斯くて賣買手形の數量にして豊富に而して爲替尻にして圓滑に進退するならんには、外國爲替業務の經營には必ずしも巨大なる資本投下の要なく、加之、其の投下資本に對しては極めて恰好なる利廻りを呈する。勿論、他の事業と等しく同業にありても先づ經營が永く繼續せらるるを前提する、蓋し、例へばかの大戰時の前半期に於て倫敦に支店を開設し一磅九圓内外の相場を以て巨萬の磅貸方殘高を設置せるの一銀行にして、經營數年ならず、若し今日其の爲替業を閉鎖したりとせば、其の英貨殘高は此の暴落せる七圓臺の相場にて處分せざるべからざるが故に、非常の損失を見るべければである。次いで爲替取引にありても一般商品若くは有價證券取引に於けるが如く勿論、投機的一面がなくはない、而かも斯くの如きは或ひは初めより手を染めざるを得るか、或ひは掛け繋ぎ取引を行つて其の保險的効用に訴ふるを得る。斯くして經營にして永く繼續せられ而して正常業務の埒外に出づることなくんば、爲替業務上の損失の可能性 *loss possibilities* は先づ必無の所なりとして一意、利潤の可能性 *profit possibilities* 及び利潤を持ち來たす行程を記述するは、正鵠を得たるものなりと思ふ。

さてかく前提して此の利潤源泉を考察するに、觀念上之を主たる利潤源泉 *hauptsächliche Gewinnquelle* 及び從たる利潤源泉 *nebensächliche Gewinnquelle* に分かつて使なりとせう。而して主たる利潤源泉は各種の商業手形及び銀行手形の賣買の裏に發し、其の從たるものとしては國際貸借手形及び金融手形の取引、爲替裁定取引、先き物的手形買入れ、輸出入信用の授與及び其の他の信用狀の發行、地金銀金貨類の輸出入、國際的有價證券の輸出入、謂ゆる國際的信用の設定及び仲立ち等

を數ふる。

六

主たる爲替利潤源泉を成すの各種爲替手形の賣買は復た凡そ二つに分たれ得る。電信爲替に對して電信を賣り、一覽拂手形に對して一覽拂を賣ち又た長期商業手形に對して長期銀行手形を賣ると云ふが如き賣買せらるべき手形の同種なる場合は其の一であり。買入れたる長期商業手形に對して一覽拂手形を賣ると云ふが如き賣買せらるべき手形が別種に屬するものなる場合は其の二である。而して綜じて云へば、爲替銀行利潤の最大源泉にして兼ねて國民經濟上に最重要の役目を演ずるものは、右の其の二に外ならずして、殊にかの商業手形主として輸出手形を買取り之を海外支拂地に於て割引若くは割戻の下に現金化し、斯くして得たる在外貸方殘高に對して銀行自ら發行するの一覽拂手形を賣出すの場合、即ち英米銀行家の口吻を藉らば selling "Demand" against "Long" に外ならぬのである。

然しながら事を盡くすが爲めに姑らく一、二の各場合を逐一に短言しやうならば、下の如く要約し得るであらう。先づ他行の電信を買ひ之に對して自行電信を賣る selling Cables against Cables とは、事實上殆んど利潤の源泉たらしむること難しと云ふの簡明なる理由の下に發生すること亦た極めて稀れである。抑々電信爲替は送金爲替相場の基準をなすものであり、又た何等信用要素を含む所なし、即ち甲乙行の電信爲替は全然同一に評價せらるべければである。之にありても極めて稀

れに紐育市場に於ける電信の賣買價間に五點 5 points 方の開きを示すことありと云ふけれども、斯かる英貨一磅に對して米貨一仙の百分の五と云ふ如き微細なる利潤は、如何に薄利に甘んずる、爲替銀行をも吸引するのよすがとはならぬ。(以下とも本項に於て、數々用ひられる點 "points" なる語は元と斯く爲替利潤率を表示するものではなく、却つて英米間の爲替相場騰落の單位を表示せるより轉化し來れるものである。即ち近時、同爲替にありては一磅に對する一仙の二十分の一、換言すれば百分の五宛を相場變動の一單位たらしむるを例とする。かくて例へば五點 5 points の變動ありとは、即ち一萬磅につひて五弗の變動ありしを示めす。)(註一) 同様の理由によつて他銀行の一覽拂手形若くは小切手を買ひ之に對して自行小切手を賣る selling "demand" against "demand" の取引も亦見るべきの利潤源泉ではない、紐育にあつて異常の市場景況の下にありては斯かる賣買間にも十點の利潤を持ち來たすことありと傳へらるゝも、是れ眞に稀觀の所たるにすぎぬ。次ぎに銀行長期手形を買ひて之に對して自行長期手形を賣る selling "bankers' long" against "bankers' long" 場合も一應想像し得らるゝけれども是れ亦好ましき利潤源泉ではあり得ない。即ち長期とれば、銀行手形にありても尙ほ發行銀行の異なるに從ひ若干の信用要素入り來たり從つて賣買價格には時に十五點方の開きを見ることありと云ふけれども、併しながら支拂地に於て割引し得ざるの銀行手形を買入れ、之に對して自行手形を長期間市場に曝らしおくことは、銀行家の好む所ではない。上に述ぶるが如くにして同種手形を賣買するは重要な營利潤泉たり得ないのであるが、其の然る所以のものは既に同種手形たる以上、關係者の信用には太だしき庭逕あるなく從つて利潤の一

源泉たる危険を踏むの餘地なければである。

然るに賣り若くは買はるゝ手形が種類を異にする場合、殊に買入れらるゝものが長期商業手形にして、之に對して賣出さるゝものが一覽拂若くは長期銀行手形なる場合に於ては、其の信用要素自づから異なり銀行踏む所の危険率亦おのづから相異すべきが故に、買手形の相場低きと共に賣手形の價格高かるべく、茲に利潤率は必然的に一層高からざるを得ないのである。而かも買手形の評價は最高に組織せられたる而して外國爲替仲立人の活動往來極めて敏捷なる爲替市場に於ても、其の買取銀行の異なるに従がひて若干の相異を現はす、是れ爲替銀行の信用調査係り若くは信用調査部 credit men; credit department 又或ひは職業的興信所 mercantile agencies の活動に俟つべき所にあり、是等の消息報道に聽ひて、善良なる手形をば比較的低廉に買入るべきであらう。思ふに銀行の賣相場に至つては組織せられたる市場にありては殆んど同一なるべきが故に、他行に對する功名は買相場の裏に求めらるべきである。此の賣買手形の種類を異にする取引には或ひは selling Cables against "Demand" あり、或ひは selling "short" against "long" ありと云ふが如く、數學上の順列變換の許るだけの諸取引が想像せらるゝ譯けであるが、例へば前者即ち一覽拂を買入れて電信を賣るものゝ如きは、關係者凡そ銀行なるが故に、危険渺なき代り營利の餘地亦た從つて十五點を超えずと傳へられる。

茲に於て投機的要素を含まざる一切の爲替取引中利潤最も大なるものとしては即ち、重もに一覽後三ヶ月拂の商業手形を買入れ之を國際的金融市場に送付して割引又は割戻の下に預金殘高を創設

し、之に對して絶えず一覽拂手形を賣出す所のものが高張せらるゝ譯けであり、是れ事實上亦た爲替業務の太宗をなし最大級に於ける利潤源泉をなすものである。げに、此の selling "Demand" against commercial "Long" 又は selling "demand" bills against remittances of long bills なるものに比較せられては、他の凡べての手形取引の類は營利淵源として眞に些末のものとならざるを得ない、最高利潤の源泉 the principal source of profit; die hauptsächlichste Gewinnquelle 職として是處に在る。實に外國爲替業の立脚する所の大地は、この商品輸出によつて現はれ来る商業手形を成るべく低廉に買入れて成るべく大なる在外預金殘高を創設するにある。而して此の種手形の支拂地に於ける價格が、夫の全般的なる爲替相場を措いては、専ら手形振出人並びに支拂人の信用の厚薄に因るのは言ふを俟たぬ。されば爲替相場及び支拂地に於ける割引歩合は之を姑らく舍いて、手形關係者の信用は夫の手形價值を基礎づける輸出商品の販賣能力と共に、深く考慮せられねばならぬ。即ち輸出手形買入に就ては通例なるがやうに、縦ひ船積書類を以て商品に對する擔保權が買入銀行の爲めに充分設定せられをさうとも、(commercial documentary bills, com'l documentaries, documentary longs) 又た縦ひ世界的商品市場に一定市價を支配するの重要商品 "staples" たらうとも之が仕切狀金額は必ずしも手形債務の不履行の場合に於ける其の賣却値段を示すものでないからである。今ま翻つて此の種取引の行程一般を約言せう。

手形買入銀行は先づ一切の投機的要素を驅除すべく、豫め電報を以て支拂地例へば在倫敦の爲替取組先と協定し、右買入手形が倫敦に到着せる曉き其割引かるべき相場即ち將來の爲替相場を豫約

することも、數々行はれる。斯くの如くにして送附せられたる手形は、それが謂ゆる引受渡手形 *acceptance bills* なる以上、即ち船積書類引受渡 *documents for (or against) acceptance* として買取られたるものなる以上、倫敦に於て引受を得るや船積書類は即ち手形と引離されて直ちに同地割引市場にて割引かれ、之が手取英貨は即時其の在外預金となるべきである。但し手形が謂ゆる支拂渡手形 *payment bills* なる場合にありては支拂を受けるまで船積書類は手形より分離せらるゝこと能はず、*documents for (or against) payment*、即ち謂ゆる割引不能手形 "*nondiscountables*" たるものなれば、之に對して銀行手形を振出すこと以外、(註二) 名宛人又は引受人に於て自ら進みて爾か欲する場合、未經過日數に對する割戻し料 *rebate* を差引き支拂をなすを待つて現金化するの外はない。而かも手形到着後直ちに割戻しせらるべきや又何日後割戻の下に支拂はるべきやは、豫じめ逆睹せらるべきにあらざれば、斯かる手形の買入値段は引受渡手形に比較して自づから格安なるを常とする。尤も起首より到着早々割戻しせらるべきことの確實なるものにおいて、價格自づから高く買入銀行にとつても亦有利なるものである。何となれば、國際的割引市場たる倫敦に於ける割戻歩合 *rebate rate* は通例、市場歩合 *market rate* よりも低廉となつてゐるから。換言すれば、其の割戻歩合は、かの倫敦大銀行が公表する預金利率の五厘高かなるを慣習とするものなるが、同預金利率は又た英蘭銀行公定歩合 *Bank rate* の二分安とせらるゝ慣習があり、従つて割戻歩合は即ち公定歩合の一分五厘安となり、市場割引歩合よりも確かに低廉たるべければである。(註三) が併し乍ら綜じて觀れば、大多數の一流商業手形は凡そ謂ゆる引受渡しである、従つて支拂地に到着し引受を

得次第に現金化預金化せられる、斯くて設定し得たる在外殘高に對して買入銀行は直ちに先きの買入相場よりも割高かに自行發行の一覽拂手形を賣渡し、若くは之を公開市場に賣り出す。此の賣出しによつて、先きに一定の在外預金殘高を設置するに要せる邦貨額よりも一層多額の邦貨を回收し得たりとすれば、其の差額が取りも直さず利潤たるのである。かの爲替銀行が公表する所の買爲替及び賣爲替の相場の開きが、一定の利潤を齎らす如く裁定せられてゐるのは言を須ひぬ。

さて此の種の手形賣買より生ずる利潤率は、倫敦紐育間の取引に於ては平均二十點即ち一磅に對して一仙の百分の二十以内なるを常とする。若し一磅に對して一仙の五分の一即ち額面一萬磅の手形賣買に對して高かだか二十弗の利潤が少なきに失すると推せらるべくんば、斯かる取引には比較的少額の恒久的爲替尻 *the balances permanently carried abroad* の維持を除いては殆んど見るべきの資本投下を要せず、日々の在外預金殘高に至りては日々の賣爲替によりて消滅しゆくと共に、日々の買爲替によつて自働的に補充せられ行くべきものであり、宛がら右手を以て左手を洗ふが如く毎營業日の終りには貸借の双方、買持及び賣持の双方が出合ふの傾向あるを考量するがよい。而かも若し日々の買爲替に對して賣爲替を創出せず殘高を増大しもて行く如き投機的地位を敢て踏む場合に於ては利潤率は自づから之よりも高かるべきと同時に、損失の機會亦多きものと覺悟せねばならぬ。又買爲替の種類によつては五十點即ち一磅につき半仙の利益を見るとも尠なからず、と紐育市場にては傳へられるが、併し綜するに、安き手形には危險が多い、而して猶太人の箴言たる “small profits, quick returns” は、此の際省察せらるべき信條であらう。

- 1) Escher, Foreign Exchange Explained, pp. 33—4.
- 2) Escher, op. cit. pp. 89—90.
- 3) 倫敦大銀行の許す預金利率、市場割引歩合、公定制引歩合と割戻歩合との關係に就ては、左掲書參照。
Escher, Foreign Exchange Explained, pp. 45—46.
Withers, The Meaning of Money, p. 62.
Withers, Money-Changing, pp. 117—118.

七

之より謂ゆる從たる利潤源泉をなす所の爲替豫約、外資輸入、銀行間の金融的取引、爲替裁定、地金銀輸出入等を約説する。

先づ爲替豫約 dealing in "futures" in foreign exchange なるものは正確に云へば、將來一定額爲替を引渡すの契約 dealing in contracts for the future delivery of foreign exchange であつて他の諸般の先物取引の如く利潤損失の兩機會とも尠なからざるものであるが、斯かる取引は常に必ずしも投機的たらず、就中、之が賣買が爲替銀行經營上將た國民經濟上極めて重要な役目を勤むるの二場合がある。其一は支拂地例へば倫敦へ到着後直ちには割引き得られざるの手形即ち支拂渡手形 "payment" bills を送付するに際し、之が額面を速かに流動化するの目的を以て將來引渡しの一覽拂銀行手形を振出す場合にてあり。其の二は輸出業者の先物契約に對して同期限を有する自家

銀行手形を振宛つる場合である。まづ其の一を説かうに、一爲替銀行が其の多數買入手形を支拂地に送付するに當り、其の一部分は割引不能手形 "discountables" なる支拂渡手形なりと假定する。然かる場合、後者は夫の割引の下に期日前支拂を受くることなき限り爲替資金たらしむるを得ず、然るに其の期限に際しては爲替相場の低落するやも計りがたい。斯かる投機的危險を踏まざらんがため、該銀行は支拂渡手形送付と同時に、其の額面に相當し而して同手形と期限を同じうするか又は其の割引豫想日を期限とするの自家銀行手形を振出す。然らば斯かる銀行手形が將來其の期日に呈示せられたる場合には其れと時を同じうして支拂はれたるべき夫の支拂渡手形の代り金を以て之が支拂をなすを得べく、かくて従つて期間内に於ける爲替相場變動によるの危險は全く避け得らるべきである。而かも此の取引は數々恰好なる利潤を持ち來たす、即ち多數の支拂渡手形の提供せられたる場合、其の銀行にして若し、はゞ、斯かる手形が割引の下に支拂はるべき時日を期限とする自行一覽拂手形を同一支拂場所に振宛て得らるべき見込みを有するならんには、遲滞なく前者を格安すに買入ると共に後者を割高かに賣出すべければである。其の二は夫の一般銀行が有價證券を買入れ、製粉業者が小麥を買付け若くは紡績業者が棉花を輸入する場合等に於て、其の投資期間又は製造期間内に發生することあるべき市價變動の危險を保險せんが爲め行ふことのある夫の初めより轉賣買戻しを豫想するの掛け繋ぎ取引 "hedging" と同工異曲なるものにてあり。(註一) 當だに銀行の經營上必要なるのみならず、全體として一國民の外國爲替相場を安定せしむるの作用を有する。即ち例へば、米國棉花輸出商が先き物の賣買契約を試むるに當つて其の期間内の爲替相場低落

の危険を避くるべく、其の取引銀行に就て、例へば、三ヶ月後に提供せらるべき荷爲替の相場を豫約せんとする。斯かる場合、銀行は三ヶ月後に支拂はるべき自家一覽拂銀行手形の相場を基準として之より若干安値を以て此の爲替豫約に應じ、同時に將來的一覽拂手形を賣出しおく。斯かる場合に於て三ヶ月後に支拂はるべき右の一覽拂手形の支拂資金 "cover" たるべきものは即ち三ヶ月後に買入るべき棉花輸出手形の海外手取金其の者に外ならぬ。而して此の先物的銀行手形の買手たるべきものは、後述すべき金融手形を賣れる而して他日生すべき其の支拂資金の費用 "cost" を豫定しおかんと望む所の他の銀行等に外ならぬのである。要するに爲替豫約を行ふ爲替銀行にして其の業務手廣く従つて其の買持と賣持とが著しき差額を示さざるに於ては、斯くして一方賣買相場間の差額を利得しつゝ、他方相場變動上の投機的危険を免かれ得るのである。

第二に來たる貸付手形 *loan bills* なるものは今世紀初つ方以降最近時に至るまで英佛獨金融市場を貸手として、米國の金融、産業及び株式界が利用し來れるものにてあり、獨り爲替市場のみならず一般經濟界に對しても重要な影響を與ふるの金融形式である。貸付手形による資金の移動が、充實せる資本國より新進工業國へ、而して低き金利市場から其の高き市場へと、行はるゝは云ふまでもない。斯かる貸借取引の取極めには凡そ二種あつて、一を貸手たる外國銀行が貸出額に對して一定率の手數料を徴すると共に其の期限内に發生すべき爲替相場變動上の危険は全然之を借手に轉嫁するものとし、他を貸手が一定の利息を收むると共に返濟期限に於ける爲替變動の危険は貸手自ら之を負ふものとする。米國の命名に従へば、第一の形式に據るものを其の貸付銀行の英佛なるに従

がひ sterling loans, franc loans と呼び、第二の形式に據るものは素と借手國の通貨稱量によつて爲さるゝものなれば之を自國貨借入 “currency loans” と通稱してゐる。而かも何れの場合に於ても貸借の方法としては、貸手外國銀行の在米支店が其の本店宛てに振出せる長期銀行手形を借手銀行に交付するによつて行はるゝものであるが、此の場合、名宛銀行は自ら現金を貸與するものにあらすして、單に該手形に引受を與ふるに止どまる、而して此の引受濟み手形は直ちに倫敦割引市場の消化する所となつて其の手取金が借受銀行の在外預金殘高となるのである。右の手形は満期日に於て倫敦貸付銀行に呈示せらるゝは勿論なるが、其の期日少くも五日前には其の支拂資金たる一覽拂手形が紐育借入銀行によつて廻送せらるべきが故に茲に無難に償還義務が果たさるゝ譯けである。既に斯かる仕組によつて國際貸借が行はるゝ以上、此の種貸出には一見限度なきやうに覺えらるゝのであるが、自然的調節は自づから其の衷ちに備はる、此の自働的制働機たるものは、即ち倫敦割引市場の割引能力に外ならない。而して斯かる取引によつて借手銀行が、或ひは内外兩市場間に存する金利歩合の差額を利得し或ひは貸借兩當事者間に折半せらるべき手数料を利潤とすることは言を俟たぬ。(註二)

第三の從的利潤源泉は曾て Withers が最も明徹に解説せる謂ゆる金融手形 finance bills の取引から來たる。(註三) 此の手形は先づかの第三者に對して貸付を行はんとする銀行が概ね擔保品を徴して其の在本國本店に振宛つる所の貸付手形 loan bills から、次ぎに主として銀行以外の人々によりて行使せらるゝ謂ゆる融通手形 “accommodation bills” の類から、峻別せられなくてはならぬ、

即ち謂ふ所の金融手形とは、關係兩銀行の一方又は双方によりて使用せらるべき資金を調達するの目的を以て一銀行が他銀行に振宛つる所の長期手形にてあり寧ろ擔保品なきを通例とするものである。而して之が發生には凡そ三場合ある。即ち平常規則的取引を營み従て相當の貸方殘高を他行に維持するの一銀行が該殘高よりも一層巨額の資金を要する場合、其の承諾を経て相手行に振宛て之が引受を得て割引市場に賣拂ふものは其の一であり、此の場合には一銀行は他銀行に手数料を支拂ふのみにて三ヶ月若くは其れ以上、無償に資金爲替尻を調達し得。次ぎに内國一銀行が他日發生すべき爲替相場の下落を見越して他國取引銀行に長期手形を振宛つるは其の二であり、此の場合には例へば一覽後三ヶ月拂手形を振宛て其の期日に當り幸ひに豫想せる相場實現せらるれば、一層低廉に之が支拂資金たる一覽拂を買入れ送付し得べきである。最後に共同して巨額の新證券を引受けんとする外國銀行に對して手形を振出し、其の請負發行又は引受發行の何れの形式に據るを問はず之を以て新事業金融を幫成するは其の三であり、此の場合、満期日に於ける右手形の支拂資金としては、の時まで既に公衆賣出を了れる其の手法を以て充つるべきである。

第四の從的利潤源泉として學示せらるべきものは、爲替裁定 arbitraging in exchange であるけれども、こは何づれの爲替教科書にても關說せざるなきの觀あれば茲處には之を省略することとし、唯だ爲替裁定なるものは當だに手形のみに行はるゝものにあらずして、國際的有價 券地金銀の輸出入に當りても、第三國を通じて一層有利に營まるゝの場合にあつて數々利用せらるゝものなること、並びに今日の如く周密にして精選せられたる暗號電報廣く且つ絶えず行はれ、苟くも世界の一角に

乘すべきの相場出現せんか、世界的に爲替取組網を有する諸爲替銀行即ち一齊に起つて直ちに裁定的活動を行なひ得るの時にあつては事の平常時に關する限り、爲替裁定より轉來せらるべき利潤源泉の極めて些末なるべきことを一言しておくに止どめる。

以上、第六節及び本節に於て略説し來れる爲替利潤は凡そ之を二類に要約するを得る。即ち一は筆者が姑らく主たる源泉となせるものにてあり、長期商業手形を成るべく廣く買入れて金融中心市場に於ける爲替殘高を創成すると共に、絶えず一覽拂銀行手形を成るべく高價に之に振宛て賣出すものであり、二は Escher の新著に従へば之に四小章を充つる所ありし長期銀行手形の取引に相當し純粹に銀行業者間の取引たるものである。前者は全然投機的要素を含まざる正規業務たるに對し、後者には若干の投機的性質あるを免かれぬ、従つて前者は爲替銀行としては即ち當然行はざるべからざる利潤の本源たるものなるに對して、後者は最も練達せる爲替銀行にして初めて而かも警戒して營むべきものであり、又従つて前者には利潤可能性のみあつて損失可能性なきに對して後者は此の双方を伴ふ。

尙ほ以上の二源泉以外にも各種信用狀の發行、地金銀の輸出入、國際的有價證券の賣買、銀行引受の授與等の業務のあるあつて、亦利潤の二源泉をなすは明白であるが、是等に就ては殊記するの必要があるまい。

- 1) Emery, Speculation on the Stock and Produce Exchanges of the United States, New York, 1896, ch. iv, sec. iv.
- 2) 爲替豫約及び貸付手形取引に就ては、左の二書の記述、最も詳密精細なるを見る。

Whitaker, Foreign Exchange, chs. xii, xiii.

八

上の如く記述し來れる筆者は Escher と共に、爲替銀行又は大銀行に於ける外國爲替部が、其の運用資本額に比較しては、最大の利潤を示めすものなるを信せんと欲する。蓋しそが一とたび支店出張所爲替取組先の廣汎なる外國網を設備し得たる以上、且つ其の部課が濫費を伴はざる以上、實に一方買付に要せる資本は直ちに爲替資金となつて、他方恰好なる市價を支配するの賣爲替の支拂資金に供せられ、其の間また何等巨額なる固定資本を須要せざればである。

思ふに從來の爲替論上の多數文献は、此の米國著述家の試めるが如く、組織的統一的に記述せられたる利潤源泉の一章を挾むことによつて初めて學として組織せられたる爲替教科書に織り成さるゝに相異ない。即ち本文冒頭に於て繰り返へし論せるが如く、利潤源泉てふ考察を中心的對象として其の業務の經紀を辿どり行くの業こそは、爲替銀行業務の性質を如實に明晰に闡明するに於て最も有効なる所以たるべきが故であり、従つて此の著者に重ねて敬意を拂ふ所以である。而して同著者を特に高揚せる所以のものは、其の叙述せる内容其の者がその創唱に係かると云ふがためではなく、實に斯論の中心點を克く組織立てたるの創案を鑑賞したるに因る。若しも人あつて、特に利潤源泉の統一的説明と云ふと雖も、之が内容は從來の類書の各所に「散在する」にはあらずやとなさるゝべくんば、然り、其の初めて其の散在せるを拾擧して組織立てたるの功のみを以てしても尙ほ高揚

には値ひせずと言ひたい、又たかの「コロンブスの玉子」の昔語りを回顧せられよと答へたい。洵とに斷片的なる技術的記述に甘んずるは、爲替論の如き一商業學に對しても學としての生命を吹込むの所以ではないのである。而かも一般的金融論の方面に於ては、英米書のみを物色するも既に Waters の「金融論」あり、Agger の「組織的銀行論」あり、又近く Moulton の「社會の金融的組織論」の如きあつて、金融の理則をば銀行業務個々の説明を越えて高所より釋明し、廣汎なる金融現象を統一的に論攻する所あらんとはしてゐる。かくて今は其の一部門たる爲替論も、同じく此の潮勢に乗つて技術的實務的考察から一步進んで組織せられねばならぬ。(大正十年十月三十日稿了。)